



# 12 比叡山

頂部は四明岳（京都）と大比叡（府県境）の二つの嶺があり、見る場所によって山姿が大きく変わることも知られている。

また、比叡山といえは天台宗総本山の延暦寺。平安時代初期に最澄が開き、日本における仏教の聖地とされている。東塔、西塔、横川の三つの地域に分かれ、約100の建物の総称を

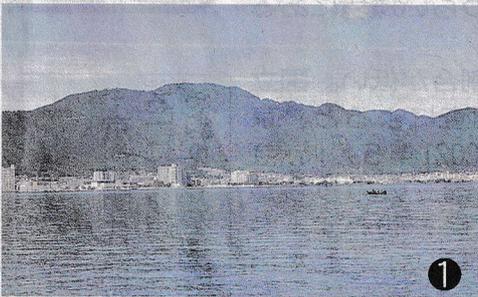
比叡山（標高848m）は滋賀県大津市と京都府の府県境にそびえ、比良山系の南に位置する。山容は、京都市内と滋賀県の多くの町から望める＝写真①。山

「延暦寺」と呼ぶ。琵琶湖側の麓には延暦寺の鎮守として日吉大社があり、門前の坂本は歴史情緒あふれる町並みが広がっている。



1200年以上の歴史をもつ比叡山へは、登山ルートがいくつもある。ここでは千日回峰行の道で「無動寺道」を上り、山頂の大比叡の一等三角点を目指すルートを案内する。登山口は、京阪石山坂本線「松ノ馬場駅」から西へ、山手にある琵琶湖病院の横を通り抜けた県道47号との合流点である＝写

## 千日回峰行の道を上る



真②。ここには比良比叡トレイルの立派な標識が立っているので分かりやすいだろう。登山口からは、しばらく舗装道を進み車止めを越え10分ほど歩くと地道となる。3体のお地藏さんが、登山者の安全を見守っている。ここで林道から階段道となり、しばし息が荒くなる場所である。右手に堰堤が見え、針葉樹林の静寂な道を進んでいくと、一体のお地藏さんに出合う。ここから幅2mほどの緩やかな階段の道を歩くと、「土佐日記」で知られる紀貫之の大きな石碑が目に見え、体力に余裕があれば紀貫之の墳墓まで約40分で着くだろう。



道が南西方向へ向くと、その先に琵琶湖がよく見える「遠見岩」に出る。再び、紀貫之の石碑があり、狭くなった道がゆつくりと下り気味に続く。いったん河原の中の道を歩き、左側に巻きながら登ると無動寺明王堂に着く。寺の前から穴太積みの石垣を右手に道を回り込み、大杉を見ながら山腹を巻くように進めばケーブル延暦寺駅だ。駅から左手上方にドライブウェイを走る車の音を聞きながら歩く、多くの観光客を魅了する根本中堂のエリアに着く。



テレビ塔の先、ヒノキに囲まれた山頂の一等三角点に到着する＝写真③。見晴らしはないが、観光客がいない静寂な落ち着いた場所へ自分の足で登った喜びをかみしめたい。下山は、登ってきた杉林の中を下り東塔へ出る。そこから時間があれば、延暦寺の根本中堂へ立ち寄るのを勧める。拝観を終えたら元へ戻り、延暦寺会館の横を通り、表参道（本坂）を下って日吉大社の鳥居横へと下ろう。途中、広い道だが一部道が荒れているので、足元には注意しよう。歩行距離約15km、歩行時間約6時間半。（日本山岳会京都・滋賀支部 浅原明男）

【アクセス】京阪石山坂本線「松ノ馬場」から。または、マイカーで比叡山鉄道（坂本

ケーブル）のケーブル坂本駅近くの県道47号沿い駐車場からが便利。